

中学生の「税についての作文」

大木町教育長賞

税金のありがたさ

大木町立大木中学校

三年 小 野 瑠 珠

学校で教科書を使い、夏にはプールの授業もある。理科では実験もするし、黒板も使う。窓は割れてないし、何より机も椅子もちろんある。体育では跳び箱やボールも使っている。私はこの全てが不思議だと思ったことはなく、当たり前だと思っていた。逆になかったらなんて考えたこともない。しかし、ある授業で言われたことがある。

「みなさんは今の生活の中で税金に助けられていることが多いです。」この言葉に私は疑問でいっぱいだった。なぜなら、今までの生活の中で税金を意識したことなどなかったからだ。そこで自分でも調べてみた。そこには驚くようなことばかりだった。

なんと当たり前前と違っていた学校のさまざまなものに税金が使われていた。私たちが学習に使っている教科書も無償で配布するための費用として一年間に四七一億円が使われている。校舎や体育施設の建設のための費用は一年間に七三二億円だ。私たち中学生一人あたりの年間教育費は約一〇八万六

千円だ。

もし教育費が無ければ私たちは学習することができない。いや、学習する環境にすらないだろう。しかし、税金はこれらの教育費だけではない。

例えば、外に出た時救急車を見たことがあるだろう。その救急車も税金が無ければお金を払わなければならない。数年前はコロナが特に流行っていて苦しんだ人もいただろう。そのコロナの対策でさえも税金が関係しているのだ。私たちはこの大切な税金を無駄にしてはいないだろうか。このありがたさに気づいて大切にできているだろうか。

テレビでは税金という言葉をよく聞く。これをテレビだけのことではなく、自分のこととして考えてほしい。子供には関係ないと思わないでほしい。みんなが税金のありがたさを知れば、もっと税金を大切に使い、さらにありがたさを感じられるはずだ。税金があるからこそ私たちの生活は安全に自由なく暮らせている。税金があるから学校に行って学習できる。病気の治療も安くなる。これは中学生だけでなく、みんなが知るべきことであり忘れてはならないことである。

私も税金のありがたさを心から感じ、これから大切にしたい。感謝していいこうと思った。当たり前だと思っていた全てのものに対して意識を変えることで税金を大切に使うことができるはずだ。これは誰にでもできる。

これから私は学校の教室に入り、机や椅子などに対して当たり前ではなく大切に「ありがたいもの」と考え学習する。